



本庁舎に設置された横断幕

青森市議会だより

第1回 定例会の報告 (令和8年2月20日～3月24日)

青森市議会議員
自民クラブ

柿崎 孝治



事務所：〒038-0058 青森市羽白野木和104-4 電話番号：017-752-9264 FAX：017-718-5675 携帯番号：090-4887-1907

青森港洋上風力発電について

青森港の油川埠頭では2024年度から拠点港湾の整備に着手されています。既設護岸を撤去し、新たに延長230m、水深12mの地耐力強化岸壁新設に加えて、水深12mの航路・泊地浚渫などを行っています。事業期間は2024年度(令和6年度)～2027年度(令和9年度)、総事業費123億円。青森港油川埠頭が洋上風力発電の基地港湾に、三菱総合研究所がロードマップを策定することとありますが、地域経済の活性化や新しい雇用に繋がるような、具体的で実現可能な計画ができればいいと考えます。産学金官の連携もまさにこれからの時代に必要な動きです。

Q

洋上風力発電関連産業の育成・集積に向けた来年度の市の取組をお示ください。

A

令和7年2月に策定した「青森市しごと創造戦略」において、産学金官が連携して新たに取り組む共創プロジェクトとして、「洋上風力発電事業への市内事業者の参入支援」、青森港を基地港湾として利用する「洋上風力発電事業プロジェクト誘致による企業立地」及び「浮体式洋上風力発電のハブ港化」の三つを位置付け、洋上風力発電関連産業の育成・集積に取り組むこととしています。令和8年度においては、三つの共創プロジェクトを推進するため、市内事業者の現状や青森港のポテンシャル分析等を踏まえ、本市の中長期的な取組内容と工程を整理したロードマップを策定することとしています。本市における洋上風力発電関連産業の育成・集積は、市内事業者に多くのビジネスチャンスをもたらすものと期待されていることから、今後とも、青森県沖日本海(南側)における洋上風力発電事業者や県、関係自治体など産学金官で連携を図りながら取組を進め、経済効果の最大限の獲得を目指してまいります。

Q

毎日、油川埠頭前を通るので工事の状況が目に入ります。豪雪時の雪捨てトラック等で朝から夜まで混雑していました。油川埠頭の雪捨て場については、いつまで雪捨て場として活用できるのかお示ください。

A

本市の除排雪業務を受託する事業者や地域住民の雪捨て場として利用されている油川埠頭は、県からの聞き取りによると、洋上風力発電の基地港湾の整備に伴い、令和8年度まで利用可能と聞いている。油川埠頭の代替地として、令和6年度から「新田浄化センター敷地内」を地域住民の雪捨て場として設置しており「新田浄化センター敷地内」及び「新城福田」については、今後も雪捨て場として利用するとともに、油川埠頭に代わる新たな雪捨て場の確保に向けて、引き続き調査・検討を進めてまいります。

Q

油川埠頭の雪捨て場が令和8年度まで延長で利用できることが市民、業者その他関係者に周知されていないと思われますが周知の方法をお示ください。

A

油川埠頭について、洋上風力発電の基地港湾整備に伴い、雪捨て場としての利用は、令和8年度末まで、いわゆる令和9(2027年)年3月まで利用可能となっています。当該情報については、〇町会長との意見交換の場である「調整会議」〇全戸配布のリーフレット「パートナーシップで除排雪」〇広報あおもり12月号の特集などを活用し『油川埠頭の雪捨て場は令和8年度までの利用となります』と説明してきたところです。

Q

油川埠頭の雪捨て場の管理者についてお示ください。

A

油川埠頭は、青森県(青森港管理所)が管理しており、本市は降雪期の利用について県から許可を受け、雪捨て場として運営し、その管理を市の除排雪事業者(㈱西澤建設)に委託しています。



油川埠頭(木材港) 2025年11月国交省ドローン撮影



油川埠頭雪捨て場

ホタテガイについて

1月13日、昨年夏の高水温の影響で大量死した陸奥湾養殖ホタテガイについて、西秀記市長と陸奥湾沿岸の8市町村長と宮下宗一郎知事が意見交換しました。市町村長からは、ホタテの持続的な生産に不可欠な親貝確保や、漁業者だけでなく加工業者に対する支援も必要であると意見がでたようです。1月16日、青森市漁協の澤田繁悦組合長と後潟漁協の山口隆治組合長が西秀記市長に陸奥湾ホタテの支援の必要性を訴え、昨年夏の高水温で大量死した陸奥湾養殖ホタテガイの稚貝及び親貝確保に向けた基金造成のための資金として、370万円以上の支援を要望しています。

Q

令和7年のホタテガイ高水温被害に対する市の支援策をお示ください。

A

本市では各漁業協同組合及び漁業者等と協力しながら、ホタテガイ生産の回復及び漁業活動の継続に向けた取組を進めるため、〇ホタテガイの安定採苗に向け、各漁業協同組合が行う親貝となるホタテガイ半成貝あわせて約100万枚(49.2トン：400kg/人×123漁業者)の地まき放流を支援する「ホタテガイ母貝確保対策事業」〇ホタテガイ養殖の再生に取り組む中、物価高騰の影響を受けている漁業者へ生産資材費等を支援する「漁業活動継続支援事業」〇農林水産業者を含む物価高騰の影響を受けている市内個人事業者等へ支援金を支給する「青森市賃上げ・物価高騰応援事業」を実施しているところです。また、本定例会において、令和7年度補正予算案として、〇令和8年春の安定採苗に向け、親貝を産卵終了後の4月以降に出荷する際の損失を補てんする基金造成のため、各漁業協同組合を支援する「ホタテガイ母貝確保緊急対策事業」また、令和8年度当初予算案として、〇ホタテガイの不作、単価安及び自然災害等による生産金額の減少を補てんする制度への加入を継続し、漁業経営の安定を図るため、各漁業者が負担する共済掛金を支援する「特定養殖共済掛金補助事業」〇高水温等の影響に左右されにくい生産体制づくりを進めるため、漁業協同組合が行う新たな養殖魚種の導入試験等を支援する「環境変化に強い漁業生産体制構築事業」〇高水温下における持続可能なホタテガイ生産体制を再構築するため、漁業協同組合が行う水中ドローン等を活用したホタテガイの生育分布調査を支援する「サステナブル漁業構築モデル事業」に要する経費を計上し、御審議いただいています。また、これらの取組に加え、本市が全国漁業信用基金協会へ出資している出資金を活用し、漁業者の生活資金借入枠を拡大できるよう環境を整えたところであります。本市としては、漁業者や漁業協同組合をはじめとする関係機関と連携を図りながら、これらの取組を着実に実施し、ホタテガイ生産の回復及び漁業の振興に努めてまいります。

要望

まずは、市の支援策を着実に実施してほしい。漁業者、漁協、関係機関と協力し、引き続き状況把握に努め、必要な支援を行ってほしい。高水温に対応したホタテの新たな養殖技術やホタテの代わりとなる魚種の養殖、高水温に強い品種の研究の実施などよりしくお願いいたします。

みなとまち・あおもり誕生400年推進事業について

1625(寛永2)年5月15日、弘前藩第2代藩主津軽信枚(つがるのぶひら)は、津軽から江戸への廻船就航を許可する連署奉書を幕府年寄衆より拝領しました。このことが「開港の契機」と言われています。翌年の1626(寛永3)年4月6日、信枚は家臣の森山弥七郎(もりやまやしちろう)に黒印状を下し、地名を「青森」としてまちづくりを命じました。油川の浄満寺には、森山弥七郎の供養碑が残されています。供養碑は青森市指定文化財で「かのど山」と呼ばれる小高い丘のガラスケースに覆われてだいに保管されています。青森開港400年の取組、港の利活用やみなとまちづくり、港の話題づくりにその年で最も優れた港湾が選定される「ポート・オブ・ザ・イヤー2025」を青森港が受賞されました。西市長はじめ、経済部関係者のみなさんおめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。「ポート・オブ・ザ・イヤー2025」受賞を記念して青森市役所本庁舎正面玄関には横断幕が設置されています。



みなとまち・あおもり誕生400年に関する令和8年度の取組についてお示しください。



開港400年という大きな節目を迎えるにあたり、港の力をもって成長し、現在も発展し続ける「みなとまち・あおもり」について、令和7年度から2年間にわたり、様々な記念事業などを展開してきました。令和8年度の取組としては、春の風物詩として4月下旬に青森駅周辺地区で開催されている「AOMORI春フェスティバル」に、東京ディズニーリゾートスペシャルパレードが参加し、ミッキーマウスなどお馴染みのキャラクターが、地元小学生などととも青森まちづくり400年のオープニングを華々しく飾ることとしています。同時期に、将棋の藤井聡太名人に糸谷哲郎八段が挑む名人戦が、47年振りに本市で開催されることになっており更なる文化振興や人づくりにつなげてまいります。夏には、次世代を担う子どもたちと未来のまちづくりについて考えるフォーラムの開催、秋頃には、みなとまちの歴史を後世に伝える記念碑の設置など、先人の誇りや想いを将来へ引き継いでいく事業のほか、これまでの取組を記録した記念誌作成なども予定しています。

要望

将棋の藤井聡太名人が4月にホテル青森で名人戦七番勝負の第二局が行われるとのことで、歓迎セレモニーが八甲田丸で開催されます。藤井聡太名人は、将棋と出会わなかったら電車の運転士になりたいと思っていたほど、大の鉄道好きで知られています。名人戦の歓迎セレモニー会場である青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸は、人や貨物だけでなく鉄道車両も積む「鉄道連絡船」としても運航していた世界でも大変珍しい船です。現在も当時活躍していた車両をそのまま展示しているため、大の鉄道ファンの藤井名人には喜んでいただけたと思います。ぜひ八甲田丸の全館を見学いただきたいと思います。この貴重な鉄道が展示された八甲田丸は、1964年の就航から今年で62年を迎え、施設自体も老朽化が目立ってきています。八甲田丸の可動橋は、鉄道車両を船に積載するために設計され、現存する可動橋は日本の代表的な機械遺産として、日本機械学会から認定されており、八甲田丸と共に歴史的価値を伝える施設として公開されています。橋の主塔部分は最初期のもので、当時の技術を今に伝えています。八甲田丸は、港町、商都として発展してきた本市を支えた青函連絡船の歴史などを伝える貴重な財産であり、ウォーターフロント地区の核的施設の一つであります。市においては、この八甲田丸を次世代に残していくため、是非、市の文化財指定をしていただき、ゆくゆくは国の重要文化財の指定を目指していただくことを要望します。



市営バスについて



今冬の豪雪により市内の道路状況が悪化し、交通渋滞による市民生活に大きな影響が出る事態となりました。その中で、油川地区の国道280号から左折して県道26号(青森五所川原線)油川中学通り、油川市民センターに向かう道路においても道路狭隘や路面状況の悪化により、運行の安全が確保できないため市営バスが一部運休・迂回運行となる事態が発生していました。公共交通の運休は、市民生活に大きな影響を与える事から質問いたします。市営バスを運休や迂回運行とする判断はどのように行っているのかお示しください。



東部営業所及び西部営業所それぞれから、各営業所が所管するエリア内の運行に支障を来すおそれのある箇所について、毎日午前4時頃から巡回を行い、運行する道路状況等の安全確認を行っています。その巡回した内容については、始発便の運行が始まる前の午前5時30分までに両営業所の運行管理者へ報告を行い、運行管理者から乗務員に対し、運行経路上における注意箇所などの情報提供を行っています。今冬、1月下旬からの強い冬型の気圧配置の影響による降雪の際には、その状況に応じて、最大7班体制で巡回を行っており、巡回者から報告を受けた運行管理者が、バスの安全な運行が困難であると判断した場合には、一部区間の運休や迂回運行を行うとともに、当該道路状況については、関係機関へ報告の上、速やかな改善を要請したところです。道路状況等の確認を適切に行い、安全確保を最優先に市営バスの運行に努めてまいります。



バスの運休・迂回を知らず、バス停で待っている人もいました。運休や迂回運行を行う場合の利用者への周知はどのように行っているのかお示しください。



市営バスの利用者に対する運休及び迂回運行の周知については、○交通部ホームページ、○青森市公式ライン、○交通部公式エックス、○バスロケーションシステム及びあおもりマイ時刻表のお知らせバナー等を活用して、随時、情報発信を行っています。そのほか、運休等の対象となるバス停留所への案内の掲示や、乗務員による車内アナウンスなどにより利用者の皆様へお知らせしています。



1月下旬の大雪交通マヒでバスの遅延が発生し、各停留所ではバスを待つお客様がスマホを見ているのが確認できました。私もJR運休、市内に向かう道路は渋滞バスの遅延を予想していたので家族を車で送って行く時、バスロケーションを確認してもらったらダウンして見られない状態でした。多くのバスを待つお客様が運行状況を確認したためシステムに障害が発生したと思われます。バスロケーションシステムのシステムダウンの状況をお示しください。



1月下旬からの強い冬型の気圧配置による降雪の影響で、多くのバスに遅れが生じたことに伴い、バスロケーションシステムへのアクセスが集中したことからサーバーがダウンし、1月23日からバスロケーションシステムへ繋がりにくい状況が続きました。その際、サーバーの管理会社へ復旧作業を依頼し、一旦回復したものの、その後も同様の状況が繰り返されたことから、サーバーへのアクセスを回避する対応の検討を行いました。その対応としては、Web時刻表などの各種時刻表を、バスロケーションシステムとは別の場所へデータを移設することにより、アクセスの分散を図ったほか、バスロケーションシステムの軽量版となる「バスロケーションシステムミラーサイト」を新たに公開したことにより、1月29日からは、バスロケーションシステムの安定稼働が確認されたところです。



感謝

右側の市営バスの写真は、2月9日月曜日、前日までに県道26号に除排雪が入り野木和団地から東部営業所行き一番バスが正常運転され、油川中学校通りバス停留所から乗客を乗せている写真です。みなさん、バスが来て安堵されているのが確認できました。交通部のみなさまには大雪の中バスを運行していただきましてありがとうございます。



令和8年3月6日で、青森市営バス発足100周年を迎えます。市営バス公式マスコットキャラクターとして「おなまえ大募集」をしました。審査結果は2026年3月8日に発表されると思われます。記念すべき100周年を迎えるにあたり、将来を担う子供たちがもっと市営バスに愛着を持つようなイベントや企画を予定していただきたいとの思いから質問いたします。市営バス100周年記念事業について、どのようなイベントを企画しているのかお示しください。



大正15年3月6日に発足した青森市営バスは令和8年3月6日で100周年を迎えます。今後も身近で親しみのある公共交通機関としての役割を果たし、多くの皆様に利用していただけるよう青森市営バスの魅力を発信し、利用促進を図るため、令和7年度末から令和8年度の期間に100周年記念事業を実施することとしています。○令和8年3月31日をもって使用が中止となる、バスカードからAOPASS(アオパス)への交通ポイント交換キャンペーン○100周年エンブレムステッカーを掲示したバス運行○市営バス歴史パネル展などを企画しており、必要経費を当初予算案に計上し、本定例会においてご審議いただいております。今後もより一層市民の皆さまに親しまれる市営バスを目指し、取組を進めてまいります。

※油川コミュニティ協議会主催・青森市交通部共催のパネル展を、6月1日から30日まで開催いたしました。